

■ 巻頭言 ■

日本と小児科の近未来予想

尾内 一 信

川崎医科大学小児科学講座

人口が増え街に人があふれ、子供たちが教室にぎゅうぎゅう詰めで授業を受けた、元気のある古き良き日本は二度と戻らないようです。人口20%が「後期高齢者」になり、単純労働に就くのは移民と外国人あるいはロボット。医療と介護の安心は根底から覆ります。増えてゆく空席を、言葉の通じぬ人々や機械が埋めてゆく。日本と小児科の近未来予想をしてみたいと思います。

2025年の日本は、団塊の世代が75歳を超えて後期高齢者となり、国民の3人に1人が65歳以上、5人に1人が75歳以上という、人類が経験したことのない『超・超高齢社会』を世界で初めて経験します。これが『2025年問題』です。これから10年間で、日本の人口は700万人減ります。15歳～64歳の生産年齢人口が7000万人まで落ち込む一方で、65歳以上の人口は3500万人を突破します。厚労省のデータによると、現時点でも、軽度のを含めれば、少なくとも820万人が認知症を患っています。2025年には1200万人以上が認知症と予想され、実に全国民の10人に1人が認知症。そんな国が成り立つのか、という強い疑問が湧いてきます。2025年というとは6年後の日本です。そんなに先の話ではないのです。

ヨーロッパでは産業革命以後社会は右肩上がりでしたが、第一次世界大戦後にピークアウトを既に経験していて、成長のない社会を成熟社会、ゆとり社会と呼称して、移民の受け入れ、社会保障の充実、ワークシェアリング、スローライフの勧

めなどに対応しています。日本も何とか知恵を絞って対策を取る必要がありますが、ヒントがヨーロッパにあると思います。すでにピークアウトを経験したヨーロッパ諸国の対応の善し悪しを精査して歴史を学べば、今後の日本の適切なあり方に繋がると思います。ヨーロッパでは、生産年齢人口減少を補うためにアフリカや中近東から多くの移民を受け入れてきました。例えば、ドイツは1950年以降、積極的に移民を受け入れ、今では国民の5人に1人が「移民の背景」を持つようになっています。現在日本では、国籍がなくても永住と就労を保障する資格証明書となる日本版グリーンカードが検討されていますが、歴史的に考えると移民が生産年齢人口減少に対する唯一の解決策です。未来社会のイメージでしばしば登場するAIロボットでは置き換えられないと考えられています。移民が増える近未来に、日本社会においては人種や民族の多様性に対する前向きな対応が必要です。日本は、長きに亘って概して単一の民族社会として構成されてきました。したがって、法律や国民の意識が歴史的に単一の民族社会に馴染んでいるので、移民に対するアレルギー感が強いと思います。今後、政府は社会の意識改革のために教育、啓発など様々な対応を進めると思います。われわれの身近な問題としては、医療においても民族や言語の多様性に対応する必要があります。まずはとっかかりとして、海外からの渡航者に対する医療への心構えをしておきましょう。

人口減少社会における日本の最優先課題は移民と、もう1つは少子化対策です。少子化を克服した先進国として名前がよく挙げられるのがフランスとスウェーデンです。フランスは1994年に1.66まで下がった合計特殊出生率が、2010年には2.01に上昇しています。スウェーデンは1999年に最低の1.5を記録しましたが、2010年には1.98まで回復しています。フランスもスウェーデンも政府が積極的かつ手厚い出産・育児支援を行い、子供を安心して産める環境を整えています。日本の少子化対策はまだ不十分ですが、今後日本もヨーロッパ諸国に倣って対応が取られると思います。

さて、医療について目を向けると、医療ニーズがピークになるのが、2025年と考えられています。2025年を越えると高齢者人口も全人口も減少傾向が加速して医療ニーズもどんどん減少していきます。今後、生産年齢人口が減り医療費にかけ

る余裕がなくなる日本では、医療機関においては統廃合、集約化、効率化をキーワードに、生き残りが最大のテーマになります。一言でいうと余裕がなくなったということです。小児感染症領域においては、ワクチン等の予防医学が更に進化し、また高度先進医療に伴う免疫不全と感染症との戦いが主要なテーマになると思います。小児感染症専門医には、前者の啓発と後者への熟練が重要なテーマになります。

以上まとめると、近未来に日本はかつてない超・超高齢社会を迎え、医療機関においては生き残りが最大のテーマになります。何とも暗い未来のようにも思えますが、ヨーロッパ諸国の歴史を学べば適切な対応も見えてきます。今後積極的に推進される少子化対策を小児科にとっての明るい未来ととらえ、予想される民族の多様性にも準備していきましょう。

* * *